

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-348339
(P2001-348339A)

(43) 公開日 平成13年12月18日 (2001. 12. 18)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 6 1 K 35/78		A 6 1 K 35/78	W
A 2 3 F 3/16		A 2 3 F 3/16	
A 2 3 L 2/52		A 2 3 L 2/38	C
	2/38		N
		A 6 1 K 9/08	

審査請求 未請求 請求項の数35 書面 (全 6 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2001-102086 (P2001-102086)
(22) 出願日 平成13年2月26日 (2001. 2. 26)
(31) 優先権主張番号 特願2000-140939 (P2000-140939)
(32) 優先日 平成12年4月5日 (2000. 4. 5)
(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 597082887
渡邊 潔
東京都世田谷区代田1丁目43番1号
(72) 発明者 渡邊 潔
東京都世田谷区代田1丁目43番1号

(54) 【発明の名称】 花粉症サプリメント・ドリンク

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 花粉症で悩んでいる人が、高カロリーの摂取を心配することなく、飲む回数、飲む量を増やすことができ、花粉症の症状から解放される花粉症サプリメント・ドリンクの提供。

【解決手段】 水を溶媒、日本茶を溶質としてできた溶液と、水を溶媒、ハーブ (ペパーミント、レモングラス、ローズヒップ等のうち1種又は混合物) を溶質としてできた溶液を混ぜ合わせてできた溶液を溶媒として、花粉 (杉、よもぎ、ぶたくさの混合物) を添加した蜂蜜を希

【特許請求の範囲】

【請求項1】 水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、ハーブ(4)を溶質としてできた溶液(5)を混ぜ合わせてできた溶液(6)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項2】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、ハーブ(4)を溶質としてできた溶液(11)を混ぜ合わせてできた溶液(12)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項3】 水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、ペパーミント(13)を溶質としてできた溶液(14)を混ぜ合わせてできた溶液(15)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項4】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、ペパーミント(13)を溶質としてできた溶液(16)を混ぜ合わせてできた溶液(17)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項5】 水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、ハーブ(4)を溶質としてできた溶液(5)を混ぜ合わせてできた溶液(6)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項6】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、ハーブ(4)を溶質としてできた溶液(11)を混ぜ合わせてできた溶液(12)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項7】 水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、ペパーミント(13)を溶質としてできた溶液(14)を混ぜ合わせてできた溶液(15)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項8】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、ペパーミント(13)を溶質としてできた溶液(16)を混ぜ合わせてできた溶液(17)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・

ト・ドリンク。

【請求項9】 水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、複数のハーブをブレンドしたもの(22)を溶質としてできた溶液(23)を混ぜ合わせてできた溶液(24)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項10】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、複数のハーブをブレンドしたもの(22)を溶質としてできた溶液(25)を混ぜ合わせてできた溶液(26)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項11】 水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、レモンガラス(27)とローズヒップ(28)をブレンドしたもの(29)を溶質としてできた溶液(30)を混ぜ合わせてできた溶液(31)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項12】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、レモンガラス(27)とローズヒップ(28)をブレンドしたもの(29)を溶質としてできた溶液(32)を混ぜ合わせてできた溶液(33)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項13】 水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、複数のハーブをブレンドしたもの(22)を溶質としてできた溶液(23)を混ぜ合わせてできた溶液(24)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項14】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、複数のハーブをブレンドしたもの(22)を溶質としてできた溶液(25)を混ぜ合わせてできた溶液(26)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項15】 水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、レモンガラス(27)とローズヒップ(28)をブレンドしたもの(29)を溶質としてできた溶液(30)を混ぜ合わせてできた溶液(31)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項16】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶

質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、レモンガラス(27)とローズヒップ(28)をブレンドしたもの(29)を溶質としてできた溶液(30)を混ぜ合わせてできた溶液(31)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項17】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、ハーブ(4)を入れて煎じた溶液(35)を溶媒として、蜂蜜(36)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項18】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、ペパーミント(13)を入れて煎じた溶液(37)を溶媒として、蜂蜜(36)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項19】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、レモンガラス(27)、ローズヒップ(28)を入れて煎じた溶液(38)を溶媒として、蜂蜜(36)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項20】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、ハーブ(4)を入れて煎じた溶液(35)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項21】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、ペパーミント(13)を入れて煎じた溶液(37)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項22】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、レモンガラス(27)、ローズヒップ(28)を入れて煎じた溶液(38)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項23】 お茶パック(34)に日本茶(2)、ハーブ(4)を入れて煎じた溶液(35)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項24】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、ペパーミント(13)を入れて煎じた溶液(37)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項25】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、レモンガラス(27)、ローズヒップ(28)を入れて煎じた溶液(38)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項26】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、ネトル(39)を入れて煎じた溶液(40)を

溶媒として、蜂蜜(34)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項27】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、ネトル(39)を入れて煎じた溶液(40)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項28】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、ネトル(39)を入れて煎じた溶液(40)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項29】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、エキナセア(41)を入れて煎じた溶液(42)を溶媒として、蜂蜜(34)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項30】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、エキナセア(41)を入れて煎じた溶液(42)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項31】 お茶パック(34)に、日本茶(2)、エキナセア(41)を入れて煎じた溶液(42)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項32】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)、ペパーミント(13)、蜂蜜(34)、花粉(7)を固形としたものを溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項33】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)、レモンガラス(27)、ローズヒップ(28)、蜂蜜(34)、花粉(7)を固形としたものを溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項34】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)、ネトル(39)、蜂蜜(34)、花粉(7)を固形としたものを溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【請求項35】 お湯(9)を溶媒、日本茶(2)、エキナセア(41)、蜂蜜(34)、花粉(7)を固形としたものを溶質とする、花粉症サプリメント・ドリンク。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、花粉症で苦しむ者が、お茶代わりに飲むだけで、花粉症の苦しみから解放される、花粉症サプリメント・ドリンクに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の花粉症の予防対策は、(イ)医師による治療として、レーザーで鼻の粘膜を固める方法、杉のエキスを注射して体を慣らして症状を抑える減感作療法、投薬の三つの方法がある。

【0003】(口)民間療法としては、甜茶を飲む。
 【0004】(ハ)ドクダミ茶を、先ず一分間匂いを嗅いだ後に飲む。
 【0005】(ニ)ハーブティを飲む。
 【0006】(ホ)マスクや眼鏡で花粉を防御する方法である。
 【0007】(ヘ)また、蜂蜜入りの飲み物は、清涼飲料水が主流になっている。
 【0008】
 【発明が解決しようとする課題】これは次のような欠点があった。
 (イ)医師による治療としての、レーザーで鼻の粘膜を固める方法は、むしろ来年に向けての対策として行われており、今年の花粉症に対する対策としての効力に欠けるきらいがあり、治療に行く必要があり、手軽とはいえない。
 【0009】杉のエキスを注射して体を慣らして症状を抑える減感作療法も、むしろ来年に向けての対策としての方法であることにはかわりがない。
 【0010】投薬、特に飲み薬は効きはじめるまで一週間から二週間かかるので、早めに受診する必要がある。
 【0011】ステロイド注射は副作用がある。
 【0012】(口)甜茶を飲む方法は、花粉症状の軽減はあったが、花粉症の苦しみから解放されることはなかった。
 【0013】(ハ)ドクダミをお茶として、先ず一分間匂いを嗅いだ後に飲む方法は、最初は、症状の軽減を感じはしたが、目がかゆい、鼻水が大量にでる、くしゃみが頻繁にでる、体がだるい、夜中に鼻水のために目がさめる、等の花粉症の苦しみから解放されることはなかった。
 【0014】また、ドクダミ茶は、血圧を下げる効果があるために、低血圧の人には向いていなかった。
 【0015】(ニ)ハーブティーを飲む方法は、本特許願の請求項以外の方法であり、花粉症の苦しみから、解放されるほどには至らなかった。
 【0016】(ホ)マスクや眼鏡で花粉を防御する方法は、花粉を完全に防御することは難しく、必ずしも、花粉症の苦しみから解放される方法ではなかった。
 【0017】(ヘ)蜂蜜入りの清涼飲料水は、花粉症サプリメント・ドリンクとしての飲み物ではなく、お茶がわりに、一日になんばいも飲むことは、高カロリーの摂取につながり易い心配があった。
 【0018】本発明は、これらの欠点を除くためになされたものである。
 【0019】
 【課題を解決するための手段】上記の問題を解決するために、水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、ハーブ(4)を溶質としてできた溶液(5)を混ぜ合わせてできた溶液

(6)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する。
 【0020】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、ハーブ(4)を溶質としてできた溶液(11)を混ぜ合わせてできた溶液(12)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する。
 【0021】水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、ペパーミント(13)を溶質としてできた溶液(14)を混ぜ合わせてできた溶液(15)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する。
 【0022】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、ペパーミント(13)を溶質としてできた溶液(16)を混ぜ合わせてできた溶液(17)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する。
 【0023】水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、ハーブ(4)を溶質としてできた溶液(5)を混ぜ合わせてできた溶液(6)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する。
 【0024】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、ハーブ(4)を溶質としてできた溶液(11)を混ぜ合わせてできた溶液(12)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する。
 【0025】水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、ペパーミント(13)を溶質としてできた溶液(14)を混ぜ合わせてできた溶液(15)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈とする。
 【0026】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、ペパーミント(13)を溶質としてできた溶液(16)を混ぜ合わせてできた溶液(17)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する。
 【0027】水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、複数のハーブをブレンドしたもの(22)を溶質としてできた溶液(23)を混ぜ合わせてできた溶液(24)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する。
 【0028】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、複数のハーブをブレンドしたもの(22)を溶質としてできた溶液(25)を混ぜ合わせてできた溶液(26)を溶媒

として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する。
【0029】水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質として溶液(3)と、水(1)を溶媒、レモングラス(27)とローズヒップ(28)をブレンドしたもの(29)を溶質としてできた溶液(30)を混ぜ合わせてできた溶液(31)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を希釈する。

【0030】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、レモングラス(27)とローズヒップ(28)をブレンドしたもの(29)を溶質としてできた溶液(32)を混ぜ合わせてできた溶液(33)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(21)を希釈する。

【0031】水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、複数のハーブをブレンドしたもの(22)を溶質としてできた溶液(23)を混ぜ合わせてできた溶液(24)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する。

【0032】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、複数のハーブをブレンドしたもの(22)を溶質としてできた溶液(25)を混ぜ合わせてできた溶液(26)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する。

【0033】水(1)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(3)と、水(1)を溶媒、レモングラス(27)とローズヒップ(28)をブレンドしたもの(29)を溶質としてできた溶液(30)を混ぜ合わせてできた溶液(31)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する。

【0034】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)を溶質としてできた溶液(10)と、お湯(9)を溶媒、レモングラス(27)とローズヒップ(28)をブレンドしたもの(29)を溶質としてできた溶液(30)を混ぜ合わせてできた溶液(31)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を希釈する。

【0035】お茶パック(34)に、日本茶(2)、ハーブ(4)を入れて煎じた溶液(35)を溶媒として、蜂蜜(36)を溶質とする。

【0036】お茶パック(34)に、日本茶(2)、ペパーミント(13)を入れて煎じた溶液(37)を溶媒として、蜂蜜(36)を溶質とする。

【0037】お茶パック(34)に、日本茶(2)、レモングラス(27)、ローズヒップ(28)を入れて煎じた溶液(38)を溶媒として、蜂蜜(36)を溶質とする。

【0038】お茶パック(34)に、日本茶(2)、ハ

ーブ(4)を入れて煎じた溶液(35)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする。

【0039】お茶パック(34)に、日本茶(2)、ペパーミント(13)を入れて煎じた溶液(37)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする。

【0040】お茶パック(34)に、日本茶(2)、レモングラス(27)、ローズヒップ(28)を入れて煎じた溶液(38)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする。

【0041】お茶パック(34)に日本茶(2)、ハーブ(4)を入れて煎じた溶液(35)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする。

【0042】お茶パック(34)に、日本茶(2)、ペパーミント(13)を入れて煎じた溶液(37)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする。

【0043】お茶パック(34)に、日本茶(2)、レモングラス(27)、ローズヒップ(28)を入れて煎じた溶液(38)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする。

【0044】お茶パック(34)に、日本茶(2)、ネトル(39)を入れて煎じた溶液(40)を溶媒として、蜂蜜(34)を溶質とする。

【0045】お茶パック(34)に、日本茶(2)、ネトル(39)を入れて煎じた溶液(40)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする。

【0046】お茶パック(34)に、日本茶(2)、ネトル(39)を入れて煎じた溶液(40)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする。

【0047】お茶パック(34)に、日本茶(2)、エキナセア(41)を入れて煎じた溶液(42)を溶媒として、蜂蜜(34)を溶質とする。

【0048】お茶パック(34)に、日本茶(2)、エキナセア(41)を入れて煎じた溶液(42)を溶媒として、花粉(7)を添加した蜂蜜(8)を溶質とする。

【0049】お茶パック(34)に、日本茶(2)、エキナセア(41)を入れて煎じた溶液(42)を溶媒として、杉花粉(18)、よもぎ花粉(19)、ぶたくさ花粉(20)を添加した蜂蜜(21)を溶質とする。

【0050】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)、ペパーミント(13)、蜂蜜(34)、花粉(7)を固形としたものを溶質とする。

【0051】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)、レモングラス(27)、ローズヒップ(28)、蜂蜜(34)、花粉(7)を固形としたものを溶質とする。

【0052】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)、ネトル

(39)、蜂蜜(34)、花粉(7)を固形としたものを溶質とする。

【0053】お湯(9)を溶媒、日本茶(2)、エキナセア(41)、蜂蜜(34)、花粉(7)を固形としたものを溶質とする。

【0054】この時、希釈を高希釈度とすることによって、蜂蜜の絶対量を少なくすることと、日本茶、ハーブ、蜂蜜、又は、花粉を組み合わせることに、花粉症に対する効果を高めたことである。

【0055】本発明は、以上のような構成よりなる花粉症サプリメント・ドリンクである。

【0056】

【発明の実施の形態】本発明の実施と形態について説明をする。

【0057】最初、甜茶、ドクダミ、ペパーミントは単独で煎じてのむか、急須でお茶として飲んでしたが、花粉症の苦しみから解放されるほどの効果は得られなかった。

【0058】そこで、比較的効果のあったペパーミントを選んで、他のハーブとのブレンドを実験する事にした。

【0059】結果として、ペパーミントと日本茶の組み合わせが良いことを発見した。

【0060】医師による治療には、レーザーで鼻の粘膜を固める方法、杉のエキスを注射して体を慣らして症状を抑える減感作療法、投薬の三つの方法がある。

【0061】ペパーミントと日本茶の組み合わせに、減感作療法の応用として、花粉を加えることにした。

【0062】蜂蜜には、花粉症の症状を和らげる効果のあることを、実験でわかった。

【0063】さらに研究の結果、蜂蜜には花粉が入っていることがわかった。

【0064】また、蜂蜜の種類によって、薬効の違いがあることがわかると共に、花粉症に効果のある蜂蜜の種類があることがわかった。

【0065】この蜂蜜をペパーミントと日本茶に加える*

* ことにした。

【0066】小さじ二はいのペパーミントと同量の日本茶に、一リットルの熱湯を注いでできた溶液に、小さじ半分の蜂蜜を入れて飲んでみた。

【0067】飲んだ直後から、花粉症の症状は減少していった。

【0068】蜂蜜の量を少なくしても、同じような効果が得られた。

【0069】蜂蜜には多くの種類があって、花粉症に対する効果に違いがあることから、効果の低い蜂蜜に、花粉を添加することによって、効果を高めることができることがわかった。

【0070】研究の結果、ペパーミントが体に合わない人がいることがわかり、ペパーミントの代わりに、レモングラスとローズヒップのブレンドしたものが良いことがわかった。

【0071】ペパーミント、日本茶、レモングラス、ローズヒップを煎じた場合、煎じる時間の長短によって、味や効果に変化のあることがわかった。

【0072】結果として、別々に煎じて、混ぜ合わせる方法が良い場合があることが、わかった。

【0073】

【発明の効果】花粉症で悩んでいる人が、高カロリー摂取を心配することなく、飲む回数、飲む量を増やすことができる。

【0074】花粉症用眼鏡とマスクなしで、外を歩くことができなかったが、この花粉症サプリメント・ドリンクを飲むことで、花粉症用眼鏡とマスクなしでも外を歩けるようになる。

【0075】一日に何度も、鼻をかまなければならなかったが、鼻をかむ回数が減る。

【0076】鼻をかむために、大量のティッシュ・ペーパーを持ち歩く必要があったが、大量のティッシュ・ペーパーを持ち歩く必要がなくなる。

【0077】花粉症で悩んでいる人に、花粉症サプリメント・ドリンクを提供できることである。

フロントページの続き

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコード ⁴ (参考)
A 6 1 K	9/08	A 6 1 K	35/64
	35/64	A 6 1 P	27/16
A 6 1 P	27/16		37/08
	37/08	A 2 3 L	2/00
			F